



第 89 回日本結核病学会総会の開催に当たって

結核医療の進化を目指して
～特別な病気から普通の病気へ～

会長 森下 宗彦（愛知医科大学／中日病院）

第 89 回日本結核病学会総会の開催にあたって御挨拶を申し上げます。

日本結核病学会は今年で創立 91 周年となりますが、岐阜県での開催は今回が初めてであり、大変光栄に存しております。

わが国の結核はこれまでの先人の努力により著明に減少してきました。一部地域（岩手、宮城）では低蔓延地域となったものの、大都市圏では開発途上国に匹敵する高蔓延地域を抱え、国全体としては依然として中蔓延国で、状況は複雑化しております。進化とは生き残るために環境の変化に合わせて自分を変化させることですが、結核医療も進化しなければ、変化し続ける結核の状況に対応できません。制度の改革、医療技術の開発も必要ですが、これまでの対策や技術も現状に合わなければ捨てなければなりません。多剤耐性結核や非結核性抗酸菌症では、数十年前の化学療法のなかった時代と同じ状況になり、忘れ去られようとしていく外科的技術を復活させることも必要になります。

結核患者の高齢化に伴い、合併症を有する患者が増加しており、結核専門病院だけでは対処できない事例が増加しております。例えば、癌の治療中や血液透析中に発病した結核患者は結核専門病院では受け入れることが困難となります。従って、一般病院はこれまで以上に結核に関与しなければなりません。このことは多くの会員が常日頃感じておられることだと思います。結核は「特別な病気」から「普通の病気」にならなければならないのです。

一方、非結核性抗酸菌症では多くの医療関係者が困難に直面しており、このテーマの演題は年々増加しており、関心の高い領域です。また、医療関係者にとっては耳新しいヨーネ菌（非結核性抗酸菌）とクローン病の病因論的な関係も注目すべきものと考えます。

これらの幅広い問題に対処するため、行政から基礎、臨床にわたる多くのシンポジウム、教育講演を企画しました。会員からの演題の御応募は 216 題の多数を数え、この中から要望課題をワークショップとして設定しました。また、2 日目の夕方には例年に倣って ICD 講習会を開催するとともに、同時刻に市民公開講座を中日新聞社および読売新聞社と共同で開催し、一般感染症医や一般市民の啓蒙を目指しております。

新技術の開発という面では、一見無関係に見える他分野にも参考にするべき事があると考え、画期的なハイブリッドカー技術を世界に先駆けて実用化したトヨタ自動車の小木曾様に特別講演をお願い致しました。

結核診断の新技術である IGRA については、クオオンティフェロンの開発者である Dr. Jim Rothel に招請講演を御願ひするとともに、シンポジウム、ワークショップ、教育講演でも取り上げていただき、特に、行政上必要な費用対効果分析についても討議していただく事としました。

喫煙は結核の発病リスクであることが指摘されてはきましたが、結核病学会ではあまり強調されてきませんでした。喫煙は呼吸器のみならず、全身の疾患を増加させる重大な悪習です。この困難な喫煙対策についての教育講演を企画しました。

いよいよ今年からは「抗酸菌症エキスパート制度」が発足します。3 年前に始まった結核・抗酸菌症認定医・指導医認定制度と相まって、結核医療チームとしての研修環境の一層の充実が期待されます。保健師、看護師、准看護師、薬剤師、臨床放射線技師、臨床検査技師、栄養士、管理栄養士、理学療法士、などの資格を持つ方は、会費を払って当学会に入会しなくても登録抗酸菌症エキスパートに応募できます。今回は指定セミナーが開催される最初の総会です。いくつかのエキスパート向けのシンポジウムを企画しました。非会員の方々をお誘い合わせて御参集いただければ幸いです。本学会の認定制度は国指導のいわゆる専門医制度とは全く異なるもので、会員の自主的な勉強意欲を支援するものです。チームの輪を広げて結核の撲滅に向かって努力したいと思います。

ポスターの中央に登場していただいた織田信長公は、約 500 年前に岐阜の地より、「天下布武」という新しい概念の下に、当時の最新の技術を活用し、世の变革を目指した方です。鉄砲を携え、西洋甲冑に身を包み、マントを羽織る信長公のイメージは、新しい医療技術や新薬を手し、制度面の改良・整備を行い、「結核撲滅」に向かって、結核医療の進化を目指す現代の我々の姿にまさに重なり合うものであります。金色信長像は JR 岐阜駅前に屹立しており、岐阜の地に降り立つ皆様をお出迎えすることでしょう。

会場は長良川の河畔で、対岸には岐阜城をいただく金華山を仰ぎ見る絶好のロケーションです。学会の間にはロープウェイで金華山山頂の岐阜城を訪れて、眺めをお楽しみいただくのも一興です。

会員の皆様方におかれましては、春の岐阜市にお出でいただき、活発な討論を通してこの総会が充実した学会となることを祈念して御挨拶とさせていただきます。